

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、CASBEE-建築(改修)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)シード新倉庫棟計画	階数	地上3F
建設地	埼玉県鴻巣市	構造	S造
用途地域	工業地域、無指定、法第22条指定地	平均居住人員	8人
地域区分	5地域	年間使用時間	1,920時間/年(想定値)
建物用途	事務所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年5月 予定	評価の実施日	2019年4月4日
敷地面積	49,507㎡	作成者	三箇
建築面積	21,664㎡	確認日	2019年4月5日
延床面積	41,166㎡	確認者	鷹野



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.8 ★★☆☆☆

S: A: B+: B: C:

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: 60%: 80%: 100%: 100%超:

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レダ-チャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 **Qのスコア = 3.2**

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.8

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

LR 環境負荷低減性 **LRのスコア = 2.4**

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 1.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.7

3 設計上の配慮事項		
総合	多くは工場の執務エリアの計画であることから、十分な天井高を確保し、執務環境をよくするように努めた。また、事務室も十分な広さを確保し、将来的な要求にも対応できるように計画している。	その他 0
Q1 室内環境	全面的にF☆☆☆☆の材料及びVOC放散量も少ない建材を使用した。	Q3 室外環境(敷地内) 0
Q2 サービス性能	事務室及び執務室は高い天井高及び十分な床面積を確保し、執務しやすい空間を確保した。また維持管理にも配慮した計画としている。	LR3 敷地外環境 敷地内に駐輪場及び駐車場を確保し、車両の動線に配慮している。
LR1 エネルギー	設備システムの効率化を行っている。	
LR2 資源・マテリアル	節水コマを使用し、省水型の機器を利用している。使用材料は分別可能な材料を使用している。有害物質を有さない材料を使用している。	

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版、CAS
(仮称)シード新倉庫棟計画

使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版、C
評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									3.2
Q1 室内環境					0.30		-		3.5
1 音環境				3.0	0.15	-	-		3.0
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	3.0	-		
1.2 遮音				3.0	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能				3.0	0.60	3.0	-		
2 界壁遮音性能				3.0	0.40	3.0	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	-		
1.3 吸音				3.0	0.20	3.0	-		
2 温熱環境				3.9	0.35	-	-		3.9
2.1 室温制御				4.1	0.50	-	-		
1 室温		冬期24、夏季24の室温を確保できる設備容量を備えている。		5.0	0.38	3.0	-		
2 外皮性能				3.0	0.25	3.0	-		
3 ソーン別制御性		ゾーンごとに冷暖房の切り替えが可能。		4.0	0.38	-	-		
2.2 湿度制御		湿度45%~55%を実現できる設備容量を備えている。		5.0	0.20	3.0	-		
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	-		
3 光・視環境				2.8	0.25	-	-		2.8
3.1 昼光利用				2.4	0.30	-	-		
1 昼光率				2.0	0.60	3.0	-		
2 方位別開口				-	-	3.0	-		
3 昼光利用設備				3.0	0.40	3.0	-		
3.2 グレア対策				3.0	0.30	-	-		
1 昼光制御				3.0	1.00	3.0	-		
3.3 照度				3.0	0.15	3.0	-		
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0	-		
4 空気質環境				4.0	0.25	-	-		4.0
4.1 発生源対策				5.0	0.50	-	-		
1 化学汚染物質		全面的にF の材料及びVOC放散量も少ない建材を使用。		5.0	1.00	3.0	-		
4.2 換気				3.0	0.30	-	-		
1 換気量				3.0	0.33	3.0	-		
2 自然換気性能				3.0	0.33	3.0	-		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33	3.0	-		
4.3 運用管理				3.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視				3.0	0.50	-	-		
2 喫煙の制御				3.0	0.50	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-		3.8
1 機能性				4.0	0.40	-	-		4.0
1.1 機能性・使いやすさ				3.6	0.40	-	-		
1 広さ・収納性		12㎡/人の執務スペースを確保している。		5.0	0.33	3.0	-		
2 高度情報通信設備対応				3.0	0.33	3.0	-		
3 バリアフリー計画				3.0	0.33	-	-		
1.2 心理性・快適性				4.0	0.30	-	-		
1 広さ感・景観		事務室の天井高は2.7mを確保。執務室に窓を設置。		4.0	0.33	3.0	-		
2 リフレッシュスペース		執務スペースの1%以上の休憩室を設け、自販機を設置。		5.0	0.33	-	-		
3 内装計画				3.0	0.33	-	-		
1.3 維持管理				4.5	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		維持管理を行いやすい内外装材を使用。		5.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保		清掃員用の控室及び掃除流し等を確保している。		4.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				3.0	0.30	-	-		3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				3.0	0.20	-	-		
1 空調・換気設備		災害時での機能停止を防止するよう計画している。		4.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備				2.0	0.20	-	-		
3 電気設備				3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備				3.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性			4.3	0.30	-	-	4.3	
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-		
1	階高のゆとり	階高は3.9m以上を確保。	5.0	0.60	3.0	-		
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率は0.1を超える。	4.0	0.40	3.0	-		
3.2 荷重のゆとり			5.0	0.30	3.0	-		
床荷重は4500N/㎡以上を確保。								
3.3 設備の更新性			3.6	0.40	-	-		
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-		
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-		
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-		
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-		
5	設備機器の更新性	マシンハッチが設けられ、更新時での機能確保が可能。	5.0	0.20	-	-		
6	バックアップスペースの確保	バックアップ設備のためのスペースを確保。	4.0	0.20	-	-		
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.40	-	-	2.7	
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0	
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0	
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-		
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	2.4	
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	1.7	
1 建物外皮の熱負荷抑制			事務所部分[BPI][BPIm]=0.58		5.0	0.00	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.12	-	-	3.0	
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEIm] = 1.13		1.0	0.62	-	1.0
4 効率的運用			3.0	0.25	-	-	3.0	
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-		
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-		
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-		
集合住宅の評価			3.0	-	-	-		
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-		
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-		
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.0	
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4	
1.1 節水			節水コマ、省水機器を使用。		4.0	0.40	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-		
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-		
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減			2.8	0.60	-	-	2.8	
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			1.0	0.20	-	-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			躯体と仕上りが容易に分別でき、設備更新時に容易に取外し可能。		5.0	0.20	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.20	-	-	3.6	
3.1 有害物質を含まない材料の使用			有しない材料を4つ以上使用。		5.0	0.30	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-		
1	消火剤		-	-	-	-		
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-		
3	冷媒		3.0	0.50	-	-		
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	2.7	
1 地球温暖化への配慮			2.4	0.33	-	-	2.4	
2 地域環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1	
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-		
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25	-	-		
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-		
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-		
3	交通負荷抑制	駐輪場・駐車場を確保。車両動線にも配慮。	5.0	0.25	-	-		
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-		
3 周辺環境への配慮			2.7	0.33	-	-	2.7	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-		
1	騒音		3.0	0.33	-	-		
2	振動		3.0	0.33	-	-		
3	悪臭		3.0	0.33	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			2.3	0.40	-	-		
1	風害の抑制		2.0	0.70	-	-		
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-		
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-		
3.3 光害の抑制			3.3	0.20	-	-		
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-		
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	建物外壁に反射光を低減する方策をとっている。	4.0	0.30	-	-		

CASBEE埼玉県

重点項目シート





使用評価ソフトウェアバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

1 建物概要

建物名称	(仮称)シード新倉庫棟計画	BEE	0.8	BEEランク
------	---------------	-----	-----	--------

2 重点項目の評価

ライフサイクルCO ₂ の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア		
2.4	+	2.6	= 5.0	
重点項目の各スコアの合計点				
がんばろう 6.0未満 	良い 6.0以上 	非常によい 6.8以上 	すばらしい 8.0以上 	

3 重点項目についての環境配慮概要

(1) ライフサイクルCO₂の削減		スコア平均	2.4
< CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア >			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	2.4
< 配慮した内容を記述 >			
(2) 緑の保全・創出		スコア平均	2.6
< CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア >			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	3.0
Q3 室外環境(敷地内)	3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア	2.0
LR3 敷地外環境	2.2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
< 配慮した内容を記述 >			

: 入力欄